



ひとりでも みんなでも もっと学べる!

Live型ドリル教材!
+table+ drill Live!

実践事例

愛媛県松山市立浮穴小学校

うけな

児童・生徒数 504名

導入学年 全学年

導入教科 国語 社会 算数
理科 英語

活用場面 毎日の課題、授業の導入場面・終末場面での演習、夏休みの課題

使用端末 Windows

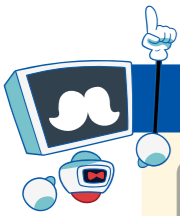
端末の持ち帰り あり

わかみや いま かず
若宮 磯一先生に
タブドリLive!
の活用状況について
お答えいただきました!



タブドリLive!を導入してみて、活用状況はいかがでしょう?

タブドリLive!には、学習意欲を高める楽しい仕組みが数多くあるので、子どもたちの反応が非常に良く、クラスの8割以上の子どもが、自主的に1週間に1日以上、タブドリLive!を活用しています。キャラクターがかわいらしく、親しみやすいのも、子どもたちのやる気につながっていると思います。また、クラスのうち数人ではありますが、成績が上がったことを実感しています。これまで60点くらいしか取れなかった子どもが、80点も取れるようになり、私自身も非常に驚いています。



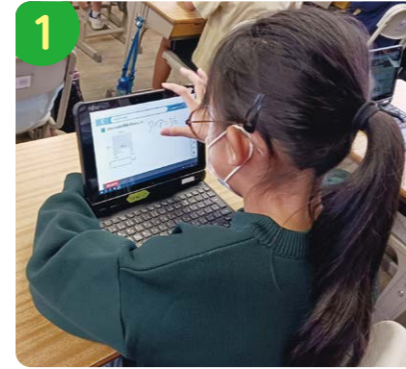
紙のドリルと比べてタブドリLive!のメリットはどんなところですか?

紙のドリルだとワークシートの印刷など、事前準備が必要でしたが、タブドリLive!はその場ですぐに取り組みさせることができるので、授業準備に掛かる時間が減りました。算数の途中式など、紙が必要な場面であっても、子どもたちはメモ機能を使って画面に直接書き込んでいるので、支障なく取り組んでいます。また、ランキングや称号のような紙ではできないデジタルならではの機能もあり、熱心に取り組む子どもが増えました。クラスの3割くらいは、授業で積極的に挙手をするようになるなど、自然と子どもの学習意欲が高まった実感もあります。



タブドリLive!managerで先生がよく活用している機能を教えてください。

課題配信の機能をよく活用しています。誰がいつ取り組んだのかが分かりますし、一覧で正誤結果も見られるので、子どもたちがどの問題でつまづいているのかがすぐに把握できます。まだ課題を提出できていない子どももすぐに判別できるので、声掛けがしやすくなりましたね。また、これまでは回収して採点する時間がかなり負担になっていたのですが、自動的に採点された状態から状況の見取りを始められるので、大変助かっています。



1 前回の復習 (5分)

授業時間の始めの5分間でタブドリLive!を使い、前回の授業に関する復習を行います。課題配信機能を使って問題を配信しているので、子どもたちはスムーズに取り組みます。



2 リアルタイムに結果を確認 (3分)

子どもたちが提出してきた結果を、リアルタイムにmanagerで確認します。正答状況が一覧で見られるので、間違いが多かった問題をその場で解説します。



3 今日のまとめ (5分)

授業内容が終わったら、managerからあらかじめ配信していた今日の授業をふりかえる問題に取り組みます。早く終わった子どもは類題など、自主的にタブドリLive!に取り組みます。

タブドリLive!を使っている子どもたちの声



授業で分からなかったところをよく復習しています。称号集めやタシピタがとても楽しいので、学習も続けられています。

毎日10分以上タブドリLive!で学習をしています。たくさん解いて、カレンダーのリングが金になるようにがんばっています。



マイタベット



今後に向けて取り組みたいことはありますか?

使い方に慣れるまでは少し大変でしたが、軌道に乗った今は子どもの活用が増え、嬉しく感じています。他の先生方も授業や課題に活用するなど、使用場面が増えてきています。ただ、間違えた問題を見直しせずに学習を終えてしまう子どもがいるなど、さまざまな課題が見えてきました。私自身もmanagerで使いこなせていない機能もあるので、今後はさらにタブドリLive!をうまく活用して、見取りや指導に生かしていきたいですね。また、学習意欲が高まったり、点数がよくなったりと、子どもの結果に表れてきているので、先生もその期待に応えられるような環境をつくっていきたいです。



タブドリLive!活用のすすめ

若宮先生が担任をされているクラスは、子どもたちが自主的にタブドリLive!を使って学習しており、非常に驚きました。1日に100問以上も学習していたり、タシピタで全国ランクインを狙って何度も取り組んだり、タベットをカスタマイズしたりするなど、子どもが主体となって積極的に活用している様子が印象的でした。「金のりんごができた」や「タシピタで全国ランキングの上位に入った」など、子どもたち同士で盛り上がるだけでなく、若宮先生にも話をしてくれるようですよ!



実践事例

香川県丸亀市立城西小学校

じょう せい

児童・生徒数 546名

活用場面 授業内容の定着を図る場面

導入学年 1年～6年

使用端末 Chromebook

導入教科 国語 社会 算数

端末の持ち帰り なし

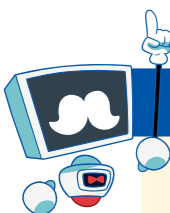
理科 英語

ふくなが たくみ
福永 拓海先生に
タブドリLive!
の活用状況について
お答えいただきました!



タブドリLive!を導入してみて、活用状況はいかがでしょう?

タブドリLive!は、子どものやる気を後押しする工夫が凝らされており、私が指導しなくても子どもたちは進んで取り組んでいます。授業内の演習時間で主に活用していますが、雨の日の休み時間は、子どもが自ら開いて夢中で使っていますね。また、さまざまなコーナーが用意されているので、「タシピタ」でランクインを目指したり、ドリルの称号を集めて友だちと見せ合ったりするなど、その子自身に応じたモチベーションで活用できるのも、魅力ではないでしょうか。友だちとゲームをするような感覚で盛り上がっていますが、中身はドリルなので、安心して使うことができます。



紙のドリルと比べてタブドリLive!のメリットはどんなところですか?

授業が終わった後のわずかな時間でも、事前準備がなくてもすぐに演習を行ったり、早く解き終わった子どもが進んで別のドリルに取り組んだりするなど、使いたい時にすぐに使え、学習できるので、先生も子どもも非常に活用しやすいと思います。また、タブドリLive!は紙のドリルに比べて、1つのドリルが短時間で解けるようになっており、答え合わせもその場ですぐに行えるため、子どもが自己調整しながら解いていける点も、デジタルならではの良さではないでしょうか。問題の途中であってもすぐに終わらせられるので、時間を指定して取り組ませやすいです。



タブドリLive!の導入により、子どもたちの学力や意欲に変化はありましたか?

タブドリLive!への積極的な取り組みもあり、学習内容が着実に定着してきているので、学力も定着していると感じています。自分でがんばった結果がポイントとして可視化されるため、さらにタブドリLive!で学習したくなるような学習習慣の形成にも役立っているのではないのでしょうか。また、意欲面も変わったと感じています。授業で学んだ内容や復習した内容について、タブドリLive!でも正解できたという実感がモチベーションに繋がるようで、普段の授業でもクラス全体が前向きになりましたね。



1



テストの類題を復習(10～20分)

授業の始めに紙のプリントで確認テストを行った後、類題となる単元をタブドリLive!で学習します。一人ひとり自分のペースで復習しています。

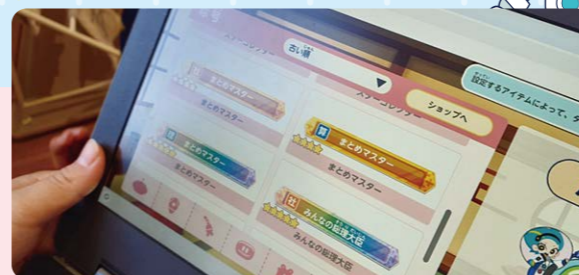
2



自習時間(15分)

復習が終わったら自習時間です。子どもの意欲を大切にしているので、タブドリLive!の学習であれば特にコーナーは指定しません。「みんなのLive!」で学習している子どもも多いです。

タブドリLive!を使っている子どもたちの声



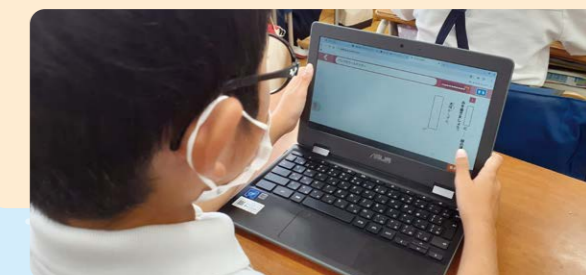
集めたアイテムやタペットをよく友だちと見せ合っています。レアな称号をもらえるように、勉強を続けています。

マイタペット

他の学年も学習できるところが良いです。特に好きな教科は上の学年に設定して、次々進められるところが気に入っています。



マイタペット



今後に向けて取り組みたいことはありますか?

まだタブドリLive!を導入して日が浅いので、managerの活用があまりできていません。特にドリルを課題として児童に配信できる機能を使いたいですね。授業で一斉にドリルに取り組ませる際、現在は口頭でドリルを指定していますが、配信機能を使えばよりスムーズに授業を行えると思います。また、ドリルには良問が多く掲載されており、勉強したことが身に付いているということ子ども自身が実感しやすいと思います。子どもたちの学習状況やがんばりを、うまくmanagerを活用して見取っていきたいと考えています。



長友 理 教頭先生からのすすめ

本校で導入した当初、先生方には授業での活用など、具体的な活用シーンはあえて指定せず、まずは子どもに使わせるようにと伝えました。これは使用を強制するのではなく、まずは子どもが自由に使える時間を確保することを目的としたからです。今では授業の自習時間や休み時間、家庭学習など、さまざまなシーンで子どもが自ら活用するようになり、この状況に驚くとともに、非常に満足しています。今後は先生方にmanagerの使用も促し、さらにタブドリLive!を活用していきたいと考えています。





ひとりでも みんなでも もっと学べる!
Live型ドリル教材!
タブドリ
 +table+drill **Live!**

実践事例 北海道釧路市立桜が丘中学校

児童・生徒数	128名	活用場面	授業中、朝学習
導入学年	全学年	使用端末	Chromebook
導入教科	国語 社会 算数 理科 英語	端末の持ち帰り	生徒の必要に応じて許可

高木優人先生、
 山口直哉先生、
 鈴木陵平先生に
 タブドリLive!の活用状況について
 お答えいただきました!

タブドリLive!を導入してみて、活用状況はいかがでしょうか?

高木先生 ゲーム感覚で進められるところや楽しげなデザインが好評で、中学生であっても取り組みに意欲的です。授業の時間だけで学習内容をすべて理解することは難しいですが、生徒自ら家庭学習でタブドリLive!を使って反復するようになり、定着も進んでいると感じています。満点になるまで何度も自主的に取り組む生徒もいますね。

山口先生 授業や家庭学習以外では、朝学習の時間を使って自主的にタブドリLive!を使っている生徒もいます。まとまった時間が取れなくても、短時間で活用できるようにしているので、生徒にとっても非常に使いやすいのではないかと思います。



紙のドリルと比べてタブドリLive!のメリットはどんなところですか?

鈴木先生 次々と問題を解き進めることができ、答え合わせもその場ですぐにできテンポよく効率的に進められるので、生徒にも好評だと思います。また、紙と違いキーボード入力のできるので、書くことに抵抗がある生徒でも取り組みやすいと感じています。

高木先生 紙のドリルは解き終わってしまうと手持無沙汰になる生徒が出てしまいますが、タブドリLive!は紙と比較にならない程の類題が収録されているので、自然と先の学習やふりかえりの学習に取り組むことができるなど、学年を超えて学習を進められる点が優れていると思いますね。



タブドリLive!managerで先生がよく活用している機能を教えてください。

山口先生 managerで表示されるクラスの平均点や学習状況などを、個人が特定されない形で生徒に見せることがあります。クラス全体の結果を北海道内や全国の同学年と比べることで、生徒へのよい刺激になっていますし、モチベーションにも繋がっていますね。

鈴木先生 私は生徒の状況を把握するためによく使用しています。ドリルの進み具合やつまづいている問題の把握など、リアルタイムにクラス全体も一人ひとりの状況も見取れるので、大変助かっています。



活用の流れ



1 授業内容の確認 (10分)
 授業内容の確認として、あらかじめ先生が配信していた問題に個人で取り組みます。時間が来たら、先生がポイントをしばって授業で解説します。

2 協働学習 (10分)
 次はグループに分かれて協働学習です。新たに配信した問題に対し、先生がグループごとに担当を決めます。グループで相談しながら問題に取り組み、結果を各自タブドリLive!に書き込みます。

3 発表・提出 (5分)
 グループごとに導いた答えや考え方を発表します。すべてのグループの発表を聞き終わったら、各自答えを記入し、先生に提出します。

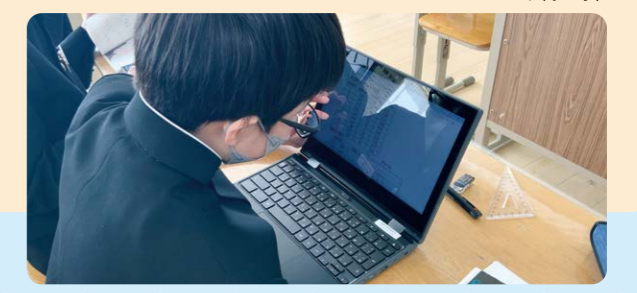
タブドリLive!を使っている子どもたちの声



紙に書くよりタブレットで学習するほうがやりやすいです。やり直しや答え合わせがすぐできて、短時間の学習にとっても役立っています。

マイタベット

タブドリLive!を活用することで、テストの点数が上がりました。学習したことや苦手なところを手軽に復習することができるので、夢中で取り組んでいます。



高校入試対策にタブドリLive!を使っていますか?

高木先生 高校入試ではさまざまな学習内容を組み合わせるなど、高度な問題が増えていますが、根底には基礎的な問題の知識や理解が問われていることが多いです。タブドリLive!ではそれがよい塩梅で収録されていると感じており、入試に向けた基礎固めとしても使いやすいと思います。特に数をこなして問題に慣れさせるときは、生徒のモチベーションが高いタブドリLive!が非常に便利だと感じています。多くの問題に触れる機会が、結果として入試対策に繋がっていくのではないのでしょうか。



タブドリLive!活用のすすめ

今回は数学と理科を専門とされている3名の先生に取材をしましたが、どの先生もタブドリLive!での取り組みやすさ、手軽さ、反復のしやすさなどに共通して好印象を持っておられました。また、小学校と変わらず、中学生でもモチベーションを維持しながら、タブドリLive!に取り組んでいました。その他、タブドリLive!に加えて、過程を考える場合は紙のドリルも組み合わせ、バランスよくさまざまな問題に向き合うことで、より一層理解や定着が深まるというお話も印象的でした。